

大草谷津田いきものの里 自然観察会

虫さん、花さんもう起きた？

岡田敬子（千葉市）

日 時：2023年3月19日（日）10時30分～12時 天気：晴れ

参加者：16名（大人8名、子ども8名）

担当指導員：木下 山下(美) 岡田

前日は一日中雨、今日の観察会はどうなるのか不安だったが晴れて良い観察日和となった。朝、下見に行くと、きのうは無かったアズマヒキガエルの卵塊と成体がいた。ニホンアカガエルの卵塊とオタマジヤクシとドジョウなどを捕獲し各容器に入れて準備した。

ウグイスカグラとツクシを飾り参加者を待つが、出足が悪い16名2班ではじめた。

明るい暖かい陽ざしを感じていち早く咲く花や虫たちを見つけようと呼びかけ観察会を始めた。駐車場で枯れ枝に黄緑のイヌシデの雄花が下がっているのや、紫色の小さな花を付いているミツバアケビの雄花と雌花を観察。セイヨウタンポポを見てもらい後で見るカントウタンポポとの違いを絵で説明、観察路を進み台風で杉の倒木があつたところが、草刈りをして広場になり ブロッコリーのような花芽のニワトコやコブシの花が咲いている。足元にはセイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、タネツケバナ、ハコベ、フキなどお花畑。白い紙に黄色や青、紫の花で色をつけた。参加者は草花で色が塗れるのにびっくり。ヒガンマムシの花がニョキっと出ていて「雄になったり雌になったりするよ」と話したら驚いていた。

明るい田んぼに出るとジロボウエンゴサクにアカハネムシ、テントウムシなどが次々に見られカップに入れて観察。早春しか見られないビロウドツリアブがホバリングしながら長い口吻でタチツボスミレの蜜を吸っている姿をしっかりと観察できた。あぜ道にスイバやギンギシの葉っぱのうらにルリ色のコガタルリハムシの交尾や黄色い卵塊を見つけ観察。田んぼで保全班が苗代で種籾をまいて子どもたちも種まきを体験し得意顔。蒔いた籾は芽を出して5月に苗になって田植え、秋に稲刈りをして米づくりをしていることを話し千葉市はボランティアを受け入れていることを知らせた。

最後は前もって容器に捕獲していた。アズマヒキガエルの成体を観察。ニホンアカガエルや長い紐状のアズマヒキガエルの卵塊を囲んでそれぞれの卵塊の形の違いやヌルヌルの感触を楽しんだ、大草谷津田には今、コロコロと鳴いているシュレーゲルアオガエルと、田植えのあとに生まれるニホンアマガエルの4種類が住んでいること、大草谷津田はたくさん生きものが生まれそして育てていることを話した。みんなで観察した卵塊、成体を元気に育つように田んぼに返した。

帰りはニホンカナヘビの子どもやモンシロチョウ、スジグロシロチョウなどを観察しながら広場に戻りツクシをお土産に解散した。